



国内外から注目を集める余市町のワイン  
Photo by Yuri Yamasaki

# 道経連会報 No.285 CONTENTS

巻頭言	1
特集／アドベンチャートラベル・ ワールドサミット北海道・日本の 開催に向けて	2
新入会員懇談会	12
旭川地域会員懇談会	13
常任理事会レポート	14
委員会等の動き	26
会員企業紹介	34
会員の異動	39
新会員企業紹介	40
グループ活動報告	41
北海道の経済動向	54
人事・労務相談日	56
道経連カレンダー	57
事務局人事	59
Face to Face	60
わがまち紹介（シリーズ55）	62



北海道経済連合会 常任理事

**阿部 晃士**

(株)JTБ

北海道広域代表

## グローバルな北海道を目指して

2019年1月18日に会社から辞令をもらいました。1992年に入社して以来27年札幌勤務であった私は、初めての海外への転勤です。勤務先は、香港（正式名称は中国人民共和国香港特別行政府）。中国の返還前の前年1996年に添乗業務で一度だけ行ったことのある地域です。2019年2月1日には、札幌を立ち3日間の語学研修や海外勤務の留意点などのレクチャーを東京で受けたのち当地へ赴任です。しかしながら直ぐには就労VISAが取得出来ず、3月上旬までは業務の引継ぎや関係諸機関への挨拶周りが主でしたが、3月中旬にはVISAが取得でき、3月末には家族も香港に来ることが出来ました。

2019年まで25年連続、「経済自由度指数」世界1位の香港は、想像通りエネルギッシュな街でした。札幌とほぼ同じ面積である香港ですが、人口は約3倍強の740万人。なんと住宅地は面積の6.9%しかないため、皆さんがイメージする賑やかな街となります。しかし、約76%は緑地（農地、草地、林地等）である為、自然が豊富でハイキング、ビーチリゾートなどアウトドアも楽しめます。263もの島がある為アイランドトリップやクルーズ等手軽に行けます。

さて2019年6月13日から始まった反政府デモ

は、前半は平和的なデモでありましたが、9月1日にはデモ隊が香港空港国際ターミナルを包囲して以来、日に日に過激になっていきました。そうなると日本からの旅行は一気にキャンセルが増え、更には10月以降デモ隊と警察の大規模な衝突が繰り返され、日本人旅行者の姿も消えてしまいました。もちろん我々観光業界は相当なダメージを受けてしまい、当社も収入源がなくなり一気に赤字に転落です。

反政府デモが収束後、2020年1月からはCovid-19の出現です。2003年にSARSを経験した香港は、非常にナーバスでした。数か月で終焉を迎えると思っていましたが、それほど甘いものではありませんでした。日本人観光客の入込も0人状態が数か月にも及びました。社の経営状態も悪化し、大規模なリストラをせざるを得ない状況で、大切な社員も退職、そして解雇等、本当に苦しく、心身ともに疲れ果てた1年となりました。残った社員と繰り返しミーティングを行い、生き残り策を講じますが大きな収益につながるビジネスモデルは創造できませんでした。そのような中でも香港にいる人たちは本当にエネルギーで「生きる力」を持ち、明るく生活をしていたのが印象的でした。まさしく、不転の覚悟で生きていたのです。

2021年1月18日に再度辞令をもらい、次はオーストラリアへ転勤です。2年間香港のローカルネットワークを拡大していた為、後ろ髪を引かれる思いでの異動です。2月中旬にシドニー入りをし、2週間の隔離を経た私は3月3日に初入社しましたが、オフィスには数人の社員しか出社していません。盛大に迎えてもらえると思っていた私は意気消沈です。その後オーストラリアは世界最長のロックダウンに入ることになります。そして、海外旅行も禁止ということもあり、出国する為には政府から許可をもらう必要があり、親族が亡くなっても葬儀の為に日本へ帰国できない友人が何人もいました。

オーストラリアの主要産業である観光業もコロナ2年目ということでもかなり傷み、崩壊の一途に向かっていました。もちろん、航空業界、飲食業界、宿泊業界なども同様です。また多くの労働者たちが観光産業から去っていきました。しかしながら、オーストラリア政府のコロナ対策は見事なものでした。2021年1月には日本よりワクチン接種率が低かったのですが、段階的に接種者が増加していきました。9月末まで続いたロックダウンを一日も早く解消したかった人々は、政府のロードマップ通りワクチン接種を行い、自由を取り戻していきます。まさしく政府が経済を動かすことに舵を切ったのです。その判断は非常に早く、日本とは大違いで驚くばかりでした。ワクチン接種もインターネットやスマートフォンで簡単に予約できるため、接種券などありません。市内店舗はほぼキャッシュレス決済ができますし、地下鉄、バスなどの公共交通機関も主要クレジットカードにて乗車することも出来、日本よりデジタル化が進んでいます。

3年間の海外勤務を経て2022年4月に北海道に帰任しました。日本と海外のスピード感やIT化の遅れ、さらにはグローバル感覚の欠如を肌身で感じてきました。日本人のパスポート保有率は17%とG7の中でも最低で、47都道府県では北海道は全国33位と非常に低いです。インバウンドの受入を増やしていきたいのであれば、道民も世界最強の日本のパスポート(VISAなし渡航可能国172か国)を取得し、世界に出てグローバルな感覚を身につけ、地元北海道(ローカル)を活性させる、グローバルな北海道に進化させなければなりません。観光は総合産業であり北海道の宝です。世界の北海道に成長させましょう。

\*グローバル(英:Glocal)とは、グローバル(Global)と、ローカル(Local)を組み合わせた造語。地球規模の視野を持ちながら、地域の視点で問題を捉え、解決していくとする考え方のことを指します。